

# 助動詞 マスタープリントNO3

推量系の助動詞「む」「むず」「じ」「べし」「まじ」

⑬ 「む」「むず」の意味は「す・い・か・か・え・て」と覚えよう。

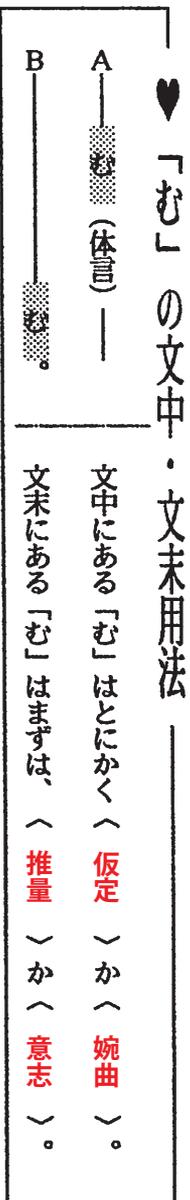
(関西の人なら「おっちゃん、こんなスカスカな西瓜食べへんで。とりかえてくな」って感じ?)

- ① (す) 推量
  - ② (い) 意志
  - ③ (か) 可能推量
  - ④ (か) 仮定
  - ⑤ (え) 婉曲
  - ⑥ (て) 適当
- 「だろ」「うん」「よう」「たい」「つもりだ」  
 「できるだろう」「としたら、その、それは・・・」  
 「ような、or訳さなくてよい」  
 「がよい」「なさい」(勧誘は軽い命令って感じ)

⑬③の可能推量は通常、辞書や参考書には載っていないが、徒然草等には登場する。もともと「む」の代表的意味は推量で、それに可能が加わっただけで、英語の may be able to に当たる。「まじ」に不可能推量が登場するので、それに慣れる意味でも「む」の可能推量は知っていて損はないと思う。

	未然	連用	終止	連体	已然	命令	接続	活用タイプ
む	○	○	(んむ)	(んむ)	め	○	未然形	四段型

★「む」には6つほど意味があるけれど、これをいちいち訳を当てはめて考えたんじゃ、とても無理。「む」はその位置が文中か、文末かで意味は簡単に絞られる。これを知らなきゃ損、損、損！

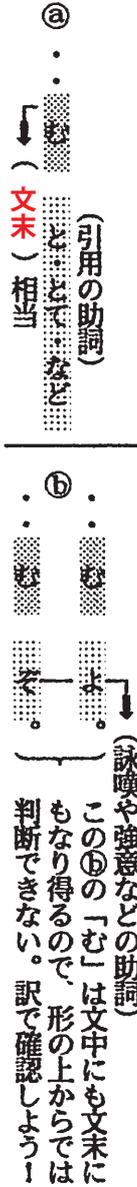


A 文中用法 — (体言) — 「む」は必ず (連体) 形。  
 文中用法は何も悩まずへ仮定へかへ婉曲へ。  
 ※仮定と婉曲のどちらかに決めようと悩む必要はない。入試では絶対にそんなことは問わない。

B 文末用法 Sが — 「む」  
 「む」の重要な意味である推量と意志は文末用法なので、見分け方をしっかり身に付けよう。  
 ① S 主語が (三人称) 自分や相手以外の人、もの。 ↓ 推量  
 ② S 主語が (一人称) 自分・当事者自身。 ↓ 意志  
 ③ S 主語が (二人称) 会話の相手や読者。 ↓ 適当・勧誘  
 ④ 可能推量も文末用法だが、この用例は少ない。訳でアプローチしよう。

※但し、100%主語によって「む」の意味が決まるわけではないので、必ず訳と合わせて確認する癖を付けよう。右のセオリーと訳を合わせれば「む」は必ず使いこなせるようになる。

また、次のように文中用法か、文末用法か判断しにくい場合もあるので、きちんと区別して、判定しよう！



◆訳に慣れよう。

- ①「少納言よ、香炉峰の雪いかならむ」⇨「清少納言よ、香炉峰の雪はどんな(だろう)(枕)⇨(推量)⇨」
- ②「まろ、この歌の返しせむむ」⇨「私がこの歌の返歌を(しよう)(土佐)⇨(意志)⇨」
- ③「かばかりになりては飛び降るとも降りなむ」⇨「これくらいの高さになっては、飛び降りても、きつと降りることが(べき)だ(源氏)⇨(可能推量)⇨」
- ④「錢あれども用ゑさらむ」⇨「は、まったく貧乏と同じことだ。【徒然】⇨(假定)⇨」
- ⑤「それは(ま)ったく貧乏人と同じことだ。【徒然】⇨(假定)⇨」
- ⑥「年五十になるまで上手に至らざるをば捨てべきなり。⇨年が五十になるまで熟練の域に達しない(よう)な(芸)は(お)う達しない(芸)は捨てた方がよいのだ。【徒然】⇨(婉曲)⇨」
- ⑦「鳴り高し。鳴りやまむ。はなはだ非常(ひさう)なり。座を引き立てて、立ち給ひなむ」⇨「騒々しい。静かになる(が)よい(源氏)⇨(勧誘)⇨」
- ⑧「立って、お立ち去り(なさい)(源氏)⇨(勧誘)⇨」

◆「いこそいめ」の「め」⇨「む」の(口然) (形は会話文中で目の前の相手や、また書物の中で読者に対して言っている時は(勧誘)⇨になる。次は病氣に悩む源氏に対して、源氏の家臣が言っているよ。「いしこかしつるときはうたてはべるを、とく(試)みさせたまはぬ。」「⇨」病氣をこじらせてしまった時は、よくございませぬので、早く(聖の祈禱を)お試し(なさいませ)⇨」

⑥ 「べし」 「べし」の意味は「す・い・か・と・め・て」と覚えよう！

- ① (す) ⇨ 推量
  - ② (い) ⇨ 意志
  - ③ (か) ⇨ 可能
  - ④ (と) ⇨ 当然
  - ⑤ (め) ⇨ 命令
  - ⑥ (て) ⇨ 勧誘
- 「だろ(う)・(に)ちが(い)ない」「う・(よ)う・(た)い・(つ)もりだ」「(は)ず(だ)・(べ)き(だ)・(ね)ば(な)ら(な)い」「(し)ろ・(せ)よ」「(が)よ(い)・(な)さい」

	未然	連用	終止	連体	已然	命令	接続	活用タイプ
べし	(べく)	べく	べし	べき	べけれ	○	終止・ラ体	形容詞型
	べから	べかり	○	べかる	○	○		

★たくさんある「べし」の意味をどうやって決めるか。

「べし」は「論理的に判断して(当然)・(はずだ)という論理性・当惑性・必然性・必然性の強い推量であり、(当然)⇨がその大本の意味だと言われる。「細かい意味は7つくらいに分類するのが一般的であるが、実際の例がどの意味に当たるかは判定しにくい場合が多い」と小学館の古語大辞典にも書かれている。事実、「べし」は意味がひとつに絞り込めず、複数の意味が該当してしまうケースが多い。だから複数の意味が該当してしまう「べし」の意味を無理にひとつに絞ろうと神経質になる必要はない。最近の入試では意味が一つに絞り込める「べし」が出题されている。2011年に学習院・文が「推量」と「可能」の意味を問うた。